

安定した生活があってこそ労働への意欲が維持できる

2006春闘、西本社へ要求書提出

3月1日、当労働組合はNTT西日本本社に対して2006春闘の要求書を提出しました。労組の違いを超えた、多くの仲間のアンケートをもとに、生活の安定をかちとるための要求となっています。

とくにここ6年は“ベアなし春闘”となっており、生活はより不安定さを増しています。多数労組が闘う前からベアなしを宣言している中で、働く仲間の良心を結集して、3.17の山場をめざして闘っていく予定です。

西日本電信電話株式会社

代表取締役社長 森下 俊三 殿

西日本NTT関連労働組合

執行委員長 島本 保徳

要 求 書

2002年のNTT「構造改革」は多額の住宅ローンや教育費の支出を抱える家計に大打撃を与え、且つ5年連続のベアなし、そして成果主義賃金の導入は生活の安定を破壊してきました。労働強化や職転・遠距離通勤・広域配転等は労働者に多大の過負荷を与えています。

一方、政府による定率減税や配偶者特別控除の廃止、一時金からの保険料の徴収は生活の不安定化に拍車をかけています。

そして企業年金制度の改悪提案は、老後の生活の見通しを不透明にしています。

もはや、将来への希望が見出しえないNTTグ

ループで働く労働者のモチベーションは下がる一方です。安定した生活があってこそ労働への意欲が維持・向上できるのです。

会社は、下記の要求に対する誠意ある回答を文書でもって3月10日までに回答するよう求めます。またこの要求に関する団体交渉を3月13日に行うよう申し入れます。

記

1. 現行基準内賃金を一律月額5万円引き上げること。
2. 夏期、年末一時金を現行基準内賃金の年間5.5ヶ月分支払うこと。
3. 雇用形態選択制度を中止し、全ての社員に65歳までの雇用を保障すること。
4. 「成果業績重視の処遇」制度を廃止すること。
5. 本人の意向を無視した単身赴任を伴う広域配転を解消すること。
6. 人間ドック検診について1日の特別休暇を付与すること。また希望者全員に脳ドック検診を追加すること。

以上

今号の紙面

- 1めん 春闘要求書を提出
- 2めん 春闘アンケートに寄せられた声
- 3めん 替え歌「バブルを知らない子供たち」
投稿「企業年金改悪不承認を喜ぶ」
- 3～4めん 沖縄の現状に触れて(報告)

遠距離通勤など無駄な金を使わず生きた金を使え

主査・課長の時間外労働に
いささか疑問符付きまとう

遠隔地配転者の地元復帰

50歳を超えて本体に残っている人に仕事の展望を示すこと

不安のない職場・働く場所

ゆとりのある仕事の仕方を望む、全体の部署がそうなること

母親が要介護のため住居に近い職場での勤務を

仕事にやる気が起こらない(派遣社員)

アンケートに寄せられた声

(抜粋)

業務運営体制の見直しはもうよい

日帰り旅費を1月も立て替えさせているがもっと早く戻せ

ストレス・負担の少なくなる職場環境がほしい

働き甲斐のある仕事に従事させてほしい

50歳での退職・再雇用制度の廃止(賃金の減額反対)

交通費の支給(派遣社員)

別になし、会社が何かしてくれるとは思っていない

備品・粗品・宣伝のツールが乏しすぎる

PHSの持ち帰りはサービス超勤の奨励

成果主義賃金は働く意欲をなくする

働き甲斐のある仕事に従事させてほしい(元の職場へ)

派遣社員ばかりを雇用し正社員の扱いが悪くなっているような気がするし、職場の連帯感が非常に薄れてきている

管理者が自分のことしか考えていない

人員増、スキルアップ 明るく働ける職場になればよい

希望の職場への配転(派遣社員)

IP-OPS投入者の増員

投稿

企業年金改悪の不承認を喜ぶ

私はN T T労組の組合員ですが、故あって名前は明かせません。

この度のN T T企業年金規約変更に対する厚労省の「不承認」決定の根拠は貴労組の主張どおりであり、貴労組の主張の正しさに感服いたしました。

一度は同意書を提出したものの、会社門前で配布された貴労組ニュースを拝見し、「撤回」手続きを行なった私にとって、不承認は嬉しい限りです。

それにつけても労使一体となり、組合員をあらゆる方向へと煽動したN T T労組には存在価値・意義はあるのでしょうか。

立場上、N T T労組を脱退できませんが、貴労組の活動を影ながら応援し、拍手を送っている者がいることをご承知戴きたく、本メールをお送りいたしました。

替え歌

バブルを知らない大人たち

(戦争を知らない子供たちの節で)

1 .バブルが終わって 僕らは生まれた
バブルを知らずに 僕らは育った
大人になって リストラに合い
今でも毎日 職安通いさ

(リフレイン)

僕らの名前を 覚えてほしい
バブルを知らない 大人たちさ

2 .バブルがはじけて 僕らは生まれた
フリーターの子供が ニートになった
こんな社会に した奴らに
怒りがはじける たたかう仲間さ

(リフレイン)

僕らの名前を 覚えてほしい
バブルを知らない 大人たちさ

(リフレイン)

僕らの名前を 覚えてほしい
バブルを知らない 大人たちさ

(作：横林)

報告

沖縄の現状に触れて

那須 弘美

去る1月27～29日にかけて、“平和のための市民行動 第2回沖縄訪問団”が企画され、私も西日本N T T関連労働組合の代表派遣という立場で参加してきました。

1945年の終戦から60年を経過した、今日の沖縄米軍基地の現状とその問題点や、当時の沖縄戦から戦争の悲惨さを学び、これから大きな政治的課題に掲げられる憲法改悪等に対する私たちの態度や行動をより明確にしていくことを目的とした旅でもあったと思います。

集団自決の修羅場「チビチリガマ」を訪れる



(チビチリガマ)

この2泊3日の旅の中で、沖縄戦での日本兵はもちろんのこと、その負傷兵や避難住民が使用されたとする、「アブラチガマ」、米軍の投降呼びかけに対し、捕虜後の扱われざまに対する日本軍によるデマや、誤った住民の意識から約84名前後の集団自決という修羅場化した「チビチリガマ」、逆に、米国帰りの経験を持つ2人の老人による住民説得によって、約1000人の人命が救われたとする「シルクガマ」の3ヶ所のガマを案内していただきました。

特にそのなかで私が印象深かったのは「チビチリガマ」でした。私も過去10数年前にここを訪れていますが、その当時はガマの奥まで入ることは許されなかったのですが、今回の案内人、知花さんの特別の計らいで、ガマの奥に今だ残る人骨の一部や戦時中に使用したと思われるビン類、ク

シ、入れ歯などが散乱した状態で拝見させていただいた時には、胸が締めつけられる思いでした。

軍隊は住民を守らない

こうした、地元案内の方々の話や、この旅のために事前準備していただいた事務局の皆さんによる資料を読みますと、1945年4月1日沖縄本土上陸した米軍は18万人、後方部隊を合わせると54万人に及び、それに対し日本軍は、現地の補助部隊を合わせても10万人程度だったという。さらに日本兵の沖縄現地語使用者に対するスパイ扱いや、足手まといとなる幼児虐殺、住民の集団自決を誘導するなど、戦死者は日本兵約6万5000人に対し、沖縄軍人・住民は約12~15万人に達するという。また摩文仁にある平和記念資料館で、ある程度整理された形で戦時状況を知ることができましたが、いずれにしろ沖縄戦で学ぶことは、戦争となれば軍隊は住民（国民）を守らない、守れない、それどころか国家体制死守のために、時に住民を利用し、時に邪魔者扱いしていたこと、このことを過去のこととして捉えるのではなく、今後の問題として位置づけなければならないと思いますし、軍隊に対するそのものの問題が浮き彫りにされている事例が、沖縄米軍基地問題でもあると思います。

ジュゴンの海に基地建設ゴリ押し

この旅で嘉手納基地や、今大きな問題となっている普天間基地視察及びその移転先を巡る攻防地としてのキャンプ・シュワブ・辺野古地区を視察させていただきました。ここでは8年間にわたって建設反対の座り込み行動が展開され、全国からも多くの支援者が訪れており、またこの辺野古沿岸部は素晴らしいサンゴ礁地帯であり、たいへん貴重なジュゴン生息地でもあると言われています。沖縄県や住民の圧倒的多くの人々は、この沿岸部建設に反対の態度を示しているにもかかわらず、日本政府は日米合意の米軍再編協議のもと、使用権限を知事から国に移す特別法の検討をしていることが新聞報道されています。すなわち、住民の意思を無視したゴリ押し建設を行おうとするのが今日の国策ということになります。



(有名なゾウのオリ)

沖縄は“生きている”

ただ私は、わずか2~3日の旅ではあったが、日本本土では強盗、殺人、幼児虐殺、生活苦や介護苦などによる自殺増が蔓延するなか、反米基地闘争としての県民抗議集会在今日でも企画されるなど、沖縄はまだまだ生きている、そういうことを感じながら帰路についたのです。

ひろがれ!!働く!仲間のたすけ愛

神戸カーズユニオン

今日からはひとりぼっちで悩まないで!!
誰でもひとりでも入れる地域ユニオンが
あなたをサポートします。

Te l . 0 7 8 - 2 3 2 - 1 8 3 8

事務所：神戸市中央区雲井通 1-1-1 ツイン
雲井 215

はたらくあなたのセーフティネット

武庫川ユニオン

あなたのがんばりを仲間が支え、仲間の
がんばりをあなたが支える。泣き寝入りをし
ないあなたの強い味方が地域ユニオンで
す。

Te l . 0 6 - 6 4 8 1 - 2 3 4 1

事務所：尼崎市東難波町 4-8-13 尼崎市立
労働センター内